

進捗状況の概要

平成 26 年度における事業推進の成果と課題を踏まえて、平成 27 年度は県立広島大学型アクティブ・ラーニング（Campus Linkage Active Learning：CLAL）の全学的な導入を推し進めるとともに、AP 事業推進部会を中心に、授業内容・教育方法の改善・転換に向けた制度的な基盤作りを行った。

27 年度の事業計画のうち、とりわけ下記の 3 つの取り組みを、CLAL 導入推進に係る中心的な取り組みと位置付け、重点的に実施した。

1. CLAL の導入・実践支援

フィールドワークや現地体験、キャンパス間交流を取り入れた行動型アクティブ・ラーニングの導入を加速させるため、「行動型学修に参加する学生への経費助成」を実施した。試行段階であった 26 年度の実施状況を踏まえて、AP 事業推進部会において運用方法や助成基準を見直し、27 年度は計 13 件（全学共通教育科目 6 件、専門教育科目 7 件）の助成を行った。

なお、行動型学修の成果は、全学 FD 研修会（兼 FDer 養成講座）や教育改革フォーラムを通じ学内に向けて報告したほか、学外フォーラム等でも発表することで、学内外への波及に寄与した。

2. ファカルティ・ディベロッパー（FDer）の養成

学内の教育改善を牽引する FDer を養成するための「FDer 養成プログラム（入門編）」を実施し、下記基準に基づき指名した候補者を対象として、全 4 回の養成講座を開講した。候補者は、FDer として活動するための基礎的な知識や技能を修得し、27 年度は計 36 人を FDer と認定した。

なお、養成講座は第 1 回～第 3 回を全学 FD 研修会、第 4 回を教育改革フォーラムと共同開催し、全教職員を参加対象としている。

FDer の指名基準

- ① AP 事業推進部会の部会員教員
- ② 行動型学修に係る経費助成事業に採択された教員
- ③ 先進事例調査に係る助成対象教員
- ④ 各学科の学科長の推薦を受けた教員

3. 学修支援アドバイザーによる学修支援活動

学修支援アドバイザー（以下「アドバイザー」とする。）による学修支援の開始にあたり、制度の検討・設計を行ったほか、本学学生の中からアドバイザー候補者を募集し、養成研修を実施した。研修を経て、全学で 30 名（学部生：23 人・大学院生：7 人）をアドバイザーとして登録した。

このほか、事業の見直し・改善に必要な意見を収集するため、関係者を対象としたアンケート等調査を実施した。ステークホルダーへの調査として、後援会総会において、学生の保護者を対象とした AP 事業の情報提供を行い、事業改善への意見を募集した。

また非常勤講師を含む全授業担当教員を対象に、学内における CLAL の導入状況、及び導入に係る教員個々の意識を把握するためのアクティブ・ラーニング導入状況調査（1 月～2 月）を実施した。

3 月 4 日には、年度の総括として、平成 26・27 年度 AP 評価委員会及び平成 27 年度教育改革フォーラムを同日開催し、これまでの取り組みを省察する機会とした。AP 評価委員会では、平成 26・27 年度の取り組みについて外部評価委員による検証・評価を受け、事業計画の見直し・改善を図った。また、教育改革フォーラムは「アクティブ・ラーニングの導入と評価」をテーマに、本学の教育について現状と課題を共有するとともに、次年度以降の本事業の方向性について議論を重ねた。

以上のとおり、平成 27 年度は事業計画を順調に履行し、一定の成果を上げることが出来た。